広島大学マスターズ主催オンライン講演会

『脱炭素社会の実現を目指す自動車のゆくえ』

講師：藤井博信（広島大学名誉教授／広大マスターズ幹事）

略歴：1941年新潟県に生まれる。広島大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士(広島大学)。広島大学教養部助手、総合科学部助教授を経て、1986年同教授。2003年同大自然科学研究支援開発センター長。2004年3月定年退官後、2004年4月から3年間特任教授。2007年～2012年広島市立大学特任研究員。1998年国際水素機能協会業績賞受賞、2000年中国文化賞受賞。専門は物理学、機能材料物性学

司会：谷本　能文（広島大学名誉教授/広大マスターズ代表幹事）
日時：2022年9月17日（土）13：30～14：30
場所：オンラインで開催（Zoom アプリを使用　双方向）

講演要旨：私達は、日常生活のエネルギー源として、石炭、石油、天然ガスなど化石燃料を使用してきました。現在、それらの大量使用によって、大気中の二酸化炭素 CO_2 の濃度が増大し、地球温暖化による深刻な異常気象（亜熱帯の砂漠化、ゲリラ豪雨による大水害、大型台風など）が発生しています。2019年、IPCC（気候変動に対する政府間パネル、国連と世界気象機関が作った2500人以上からなる気候変動に関わる科学者組織）は1.5℃特別報告書を公表しました。つまり、世界共通の長期目標として、産業革命前からの地球平均気温上昇を1.5℃以下に抑えることが極めて重要であり、そのためには、CO_2 の排出量を2010年に比べて2030年度までに45%以上削減し、2050年度頃までに正味ゼロにする必要があることを公表しました。2021年に開催されたCOP26（気候変動枠組条約第26回締約国会議、約200か国参加）では、この削減目標に沿った行動をとらなくてはならない点で世界的な合意が得られましたが、各論では様々な分野で意見の一致は得られませんでした。運輸部門の中で、特に自動車産業分野では、2035年までにガソリン車・ディーゼル車の販売を禁止し、2050年頃までに、CO_2 排出ゼロ車やカーボンニュートラル車の実用化が図られるべきであるとの提案がなされました。大枠では意見の一致が得られています。これまで、日本では、環境対策車として、電気自動車，燃料電池車，プラグインハイブリッド車，水素燃料車，バイオディーゼル燃料車、メタネーション燃料車（水素と CO_2 からメタン（CH_4）などを生成し、それを燃料とする車）など先駆的な開発研究が行われてきました。本講演では、これらの技術をいかに組み合わせ、実用的な脱炭素社会の実現を目指す自動車が開発されていくのか考えてみたいと思います。

主催：広島大学マスターズ　　共催：広大マスターズ友の会

【申込先】参加希望者の氏名（ふりがな）・メールアドレスを明記の上 yt1112@hiroshima-u.ac.jp(谷本幹事)宛てお申し込みください。参加者には開催日当日開催時刻の30分前に招待URL及びミーティングID・パスコードをメールでお知らせします。招待URL等からご参加ください（アカウント不要）。申し込み締め切りは9月10日（土）です。

【問い合わせ】広大マスターズ谷本幹事・電話080-3871-8850